

第2回守谷市立黒内小学校通学区域地域検討部会

会議次第

日 時：令和7年9月25日（木）

午後5時00分から

場 所：守谷市役所 大会議室

1 開 会

2 報告事項

教育施設新設等に係る守谷市の方針について

3 協議事項

黒内小学校の適正化方策について

4 その他

5 閉 会

黒内小学校の児童数推計について

1 特定地域選択制度の利用者推計の見直し

令和7年度の申込状況（令和8年度利用予定）が当初の見込みを大きく上回ったことから、令和7年度の申込率をベースとして、制度利用者数の見直しを行いました。

【見直し前】

表6-2 黒内小学校区からの郷州小・御所ヶ丘小への就学校変更者数(男女計)

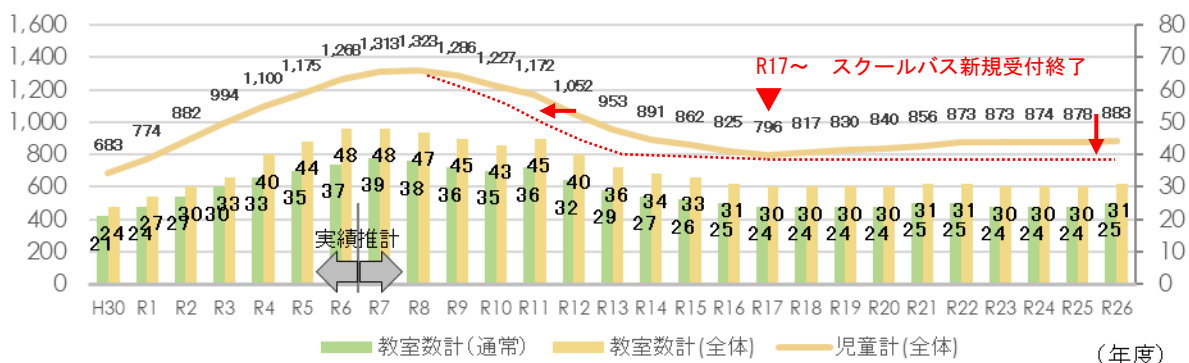
	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	2044
	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24	R25	R26
対象年齢	(実績)	(推計)	(推計)	(推計)	(推計)	(推計)	(推計)	(推計)	(推計)	(推計)	(推計)	(推計)	(推計)	(推計)	(推計)	(推計)	(推計)	(推計)	(推計)	(推計)	(推計)
1学年対象		-43	-44	-41	-42	-36	-26	-26	-26	-25	-25	-24	-24	-24	-23	-23	-23	-23	-23	-23	-23
2学年対象		-10	-43	-44	-41	-42	-36	-26	-26	-25	-25	-24	-24	-24	-24	-23	-23	-23	-23	-23	-23
3学年対象		-2	-10	-43	-41	-42	-36	-26	-26	-25	-25	-24	-24	-24	-24	-23	-23	-23	-23	-23	-23
4学年対象		-6	-2	-10	-43	-44	-41	-42	-36	-26	-26	-26	-25	-25	-24	-24	-24	-23	-23	-23	-23
5学年対象		-2	-6	-2	-10	-43	-44	-41	-42	-36	-26	-26	-26	-25	-25	-24	-24	-24	-23	-23	-23
6学年対象		-1	-2	-6	-2	-10	-43	-44	-41	-42	-36	-26	-26	-26	-25	-25	-24	-24	-24	-23	-23

【見直し後】

児童数推計値に令和7年度の申込率（特定地域選択制度：松並青葉地区の新1年生の約37.7%、就学校変更：黒内小学校の新1年生の約5.5%）を乗じて、黒内小学校以外を選択する児童数を推計し直しました。

また、黒内小学校の通学区域内児童数のピークを越えて3年が経過する令和13年以降は、特定地域選択制度の規模を徐々に縮小すると見込み、特定地域選択制度の申込率を26～30%（約7～8割）に調整しました。令和14年度に黒内小学校の児童数は800人台となり、令和17年度には800人を下回り、通常学級数も24学級の適正規模となると見込まれることから、この年度からの特定地域選択制度の新規受け入れを終了すると仮定し、推計しました。

		R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24	R25	R26
特定地域選択制度	1年生	37	58	55	54	32	34	26	22	21	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2年生	11	37	58	55	54	32	34	26	22	21	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3年生	3	11	37	58	55	54	32	34	26	22	21	21	0	0	0	0	0	0	0	0
	4年生	5	3	11	37	58	55	54	32	34	26	22	21	21	0	0	0	0	0	0	0
	5年生	3	5	3	11	37	58	55	54	32	34	26	22	21	21	0	0	0	0	0	0
	6年生	1	3	5	3	11	37	58	55	54	32	34	26	22	21	21	0	0	0	0	0
就学校変更	1年生	5	13	11	11	11	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	2年生	7	5	13	11	11	11	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	3年生	0	7	5	13	11	11	11	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7	7
	4年生	1	0	7	5	13	11	11	11	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7
	5年生	0	1	0	7	5	13	11	11	11	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	7
	6年生	0	0	1	0	7	5	13	11	11	11	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7



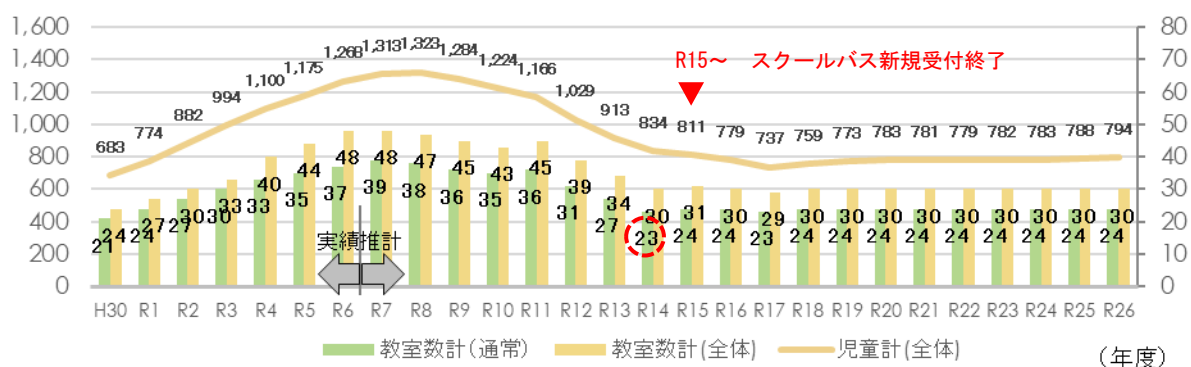
2 シミュレーション

(1) シミュレーション結果その1【通学区域の変更】

特定地域選択制度及び就学校変更に加え、令和8年度中の通学区域審議会において令和9年度から通学区域の変更を決定した場合を想定し、次の3つのパターンでシミュレーションを行いました。シミュレーションに当たっては、開始後3年間は経過措置期間とし、区域変更後の小学校への就学率を20%と仮定して、調整を行っています。

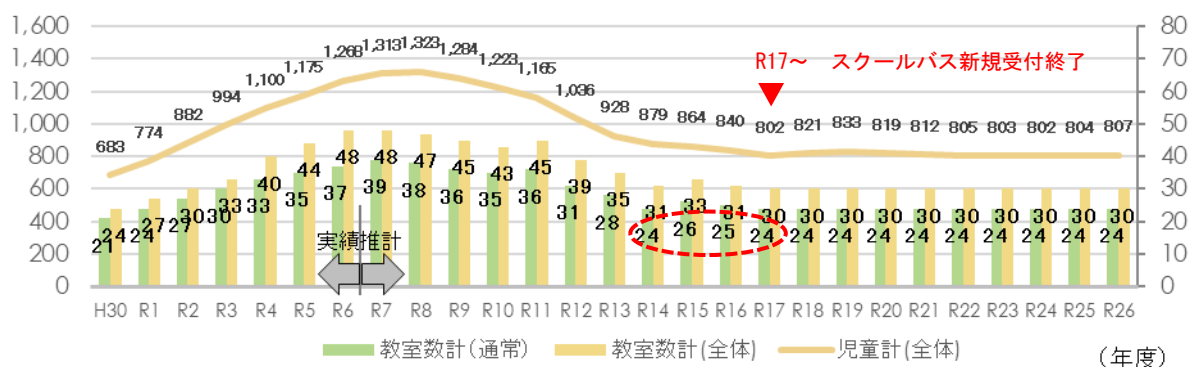
ア ひがし野一丁目とひがし野四丁目の通学区域変更

		R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24	R25	R26
通学区域変更	1年生	0	0	2	1	3	17	17	17	17	16	16	16	15	15	15	15	14	14	14	14
	2年生	0	0	0	2	1	3	17	17	17	17	16	16	16	15	15	15	15	15	15	14
	3年生	0	0	0	0	2	1	3	17	17	17	17	16	16	16	15	15	15	15	15	15
	4年生	0	0	0	0	0	2	1	3	17	17	17	17	17	17	16	16	15	15	15	15
	5年生	0	0	0	0	0	0	2	1	3	18	17	17	17	18	17	16	16	16	15	15
	6年生	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3	18	18	18	18	18	17	16	16	16	16



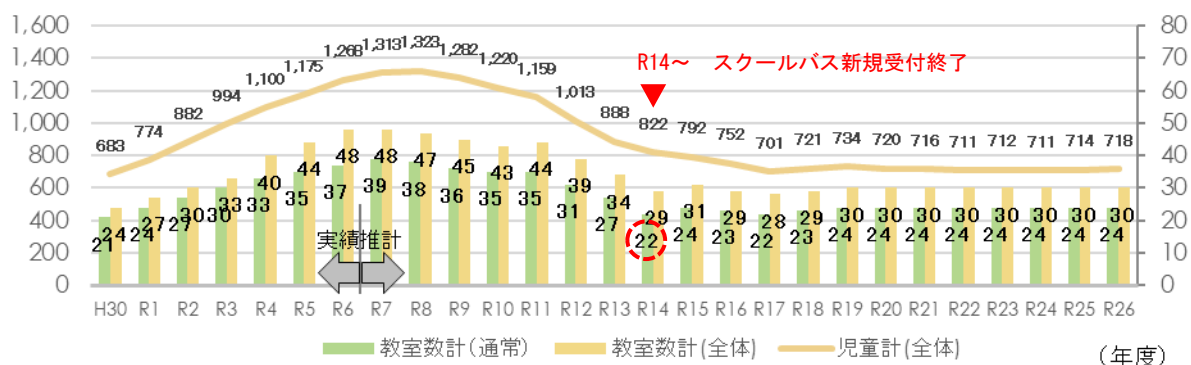
イ 土塔新山と土塔中央の通学区域変更

		R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24	R25	R26
通学区域変更	1年生	0	0	2	2	3	9	9	9	9	10	10	10	11	11	12	12	12	13	13	13
	2年生	0	0	0	2	2	3	9	9	9	9	10	10	10	11	11	12	12	12	13	13
	3年生	0	0	0	0	2	2	3	9	9	9	10	10	10	11	11	11	12	12	12	13
	4年生	0	0	0	0	0	2	2	3	9	9	10	10	10	10	11	11	12	12	12	12
	5年生	0	0	0	0	0	0	2	2	3	9	9	10	10	10	10	11	11	12	12	13
	6年生	0	0	0	0	0	0	0	2	2	3	9	10	10	10	10	11	11	11	12	12



ウ 5つの自治会全ての通学区域変更

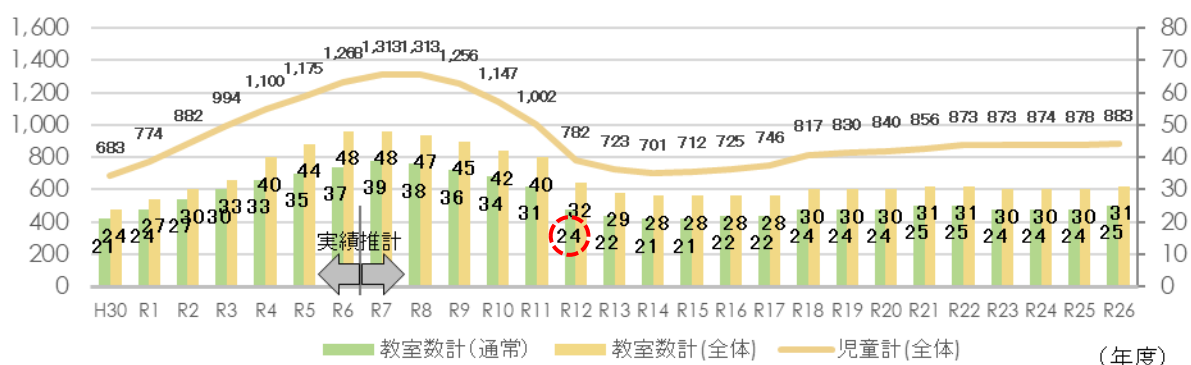
		R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24	R25	R26
通学区域変更	1年生	0	0	4	3	6	26	26	26	26	26	26	26	26	26	27	27	26	27	27	27
	2年生	0	0	0	4	3	6	26	26	26	26	26	26	26	26	26	27	27	27	28	27
	3年生	0	0	0	0	4	3	6	26	26	26	27	26	26	27	26	26	27	27	27	28
	4年生	0	0	0	0	0	4	3	6	26	26	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27
	5年生	0	0	0	0	0	0	4	3	6	27	26	27	27	28	27	27	27	28	27	28
	6年生	0	0	0	0	0	0	0	4	3	6	27	28	28	28	28	28	27	27	28	28



(2) シミュレーション結果その2【5年以内に適正規模を目指す】

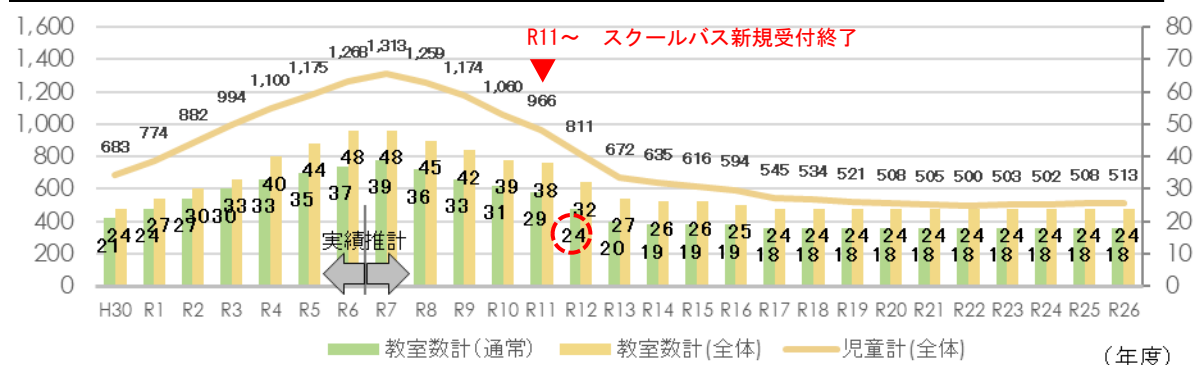
5年後の令和12年度に黒内小学校が通常学級数で24学級以下となるためには、特定地域選択制度及び就学校変更に加え、令和8年度以降に新たな α 取り組みを実施し、次の児童数を黒内小学校から他の小学校に分散させる必要があります。

		R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24	R25	R26
+ α	1年生	0	5	10	20	40	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2年生	0	5	10	20	40	50	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3年生	0	0	10	20	30	50	50	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4年生	0	0	0	20	30	40	50	50	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5年生	0	0	0	0	30	40	40	50	50	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6年生	0	0	0	0	0	40	40	40	50	50	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0



これを達成するためには、例えば通学区域の変更であれば、令和8年度から、経過措置期間を設けず、松並青葉三丁目、松並青葉四丁目、北園、ひがし野一丁目及びひがし野四丁目を守谷小学校の通学区域に編入し、土塔本町及び土塔新山を松ヶ丘小学校の通学区域に編入すると次のシミュレーション結果のとおりとなりますが、現実的ではありません。

		R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24	R25	R26
通 学 区 域 変 更	1年生	0	77	63	68	71	63	62	62	62	62	60	60	60	60	61	61	59	60	60	60
	2年生	0	0	77	63	68	71	64	62	62	62	62	61	61	60	60	61	61	61	61	60
	3年生	0	0	0	78	63	69	73	64	62	62	63	62	62	63	61	61	62	62	61	62
	4年生	0	0	0	0	78	66	70	73	64	62	63	63	63	63	63	63	62	62	62	62
	5年生	0	0	0	0	0	80	67	71	74	65	62	63	63	64	63	63	63	64	62	63
	6年生	0	0	0	0	0	0	80	67	71	74	65	64	64	64	64	64	63	63	64	63
特 定 地 域 選 択 制 度 減 分	1年生	0	-13	-15	-13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2年生	0	0	-13	-15	-13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3年生	0	0	0	-14	-15	-13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4年生	0	0	0	0	-14	-15	-14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5年生	0	0	0	0	0	-14	-15	-14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6年生	0	0	0	0	0	0	-14	-15	-14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



(3) その他の方策案の提案

ア 就学校変更基準の見直し

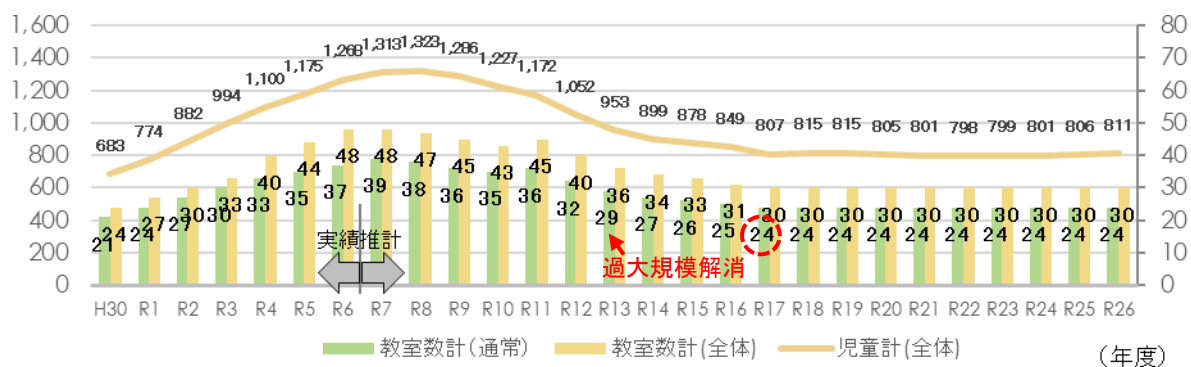
現在、就学校変更基準の要件16「過大規模校の通学区域に住民票がある児童が保有普通教室数に余裕がある学校への就学を希望する場合」に黒内小学校の全児童が該当することから、黒内小学校の児童の約5.5%が就学校変更により、他の小学校を選択する前提で推計をしています。

推計においては、黒内小学校の過大規模が解消された後も、同程度が就学校変更により他の学校を選択することとしています。現行制度において、黒内小学校の過大規模が解消された場合、当該要件に該当しなくなるため、当該要件に基づく就学校変更は利用できなくなります。

黒内小学校の過大規模が解消された（普通学級で30学級以下となった）ときに、就学校変更を認めなくなった場合の推計は次のとおりです。

(ア) 特定地域選択制度を継続

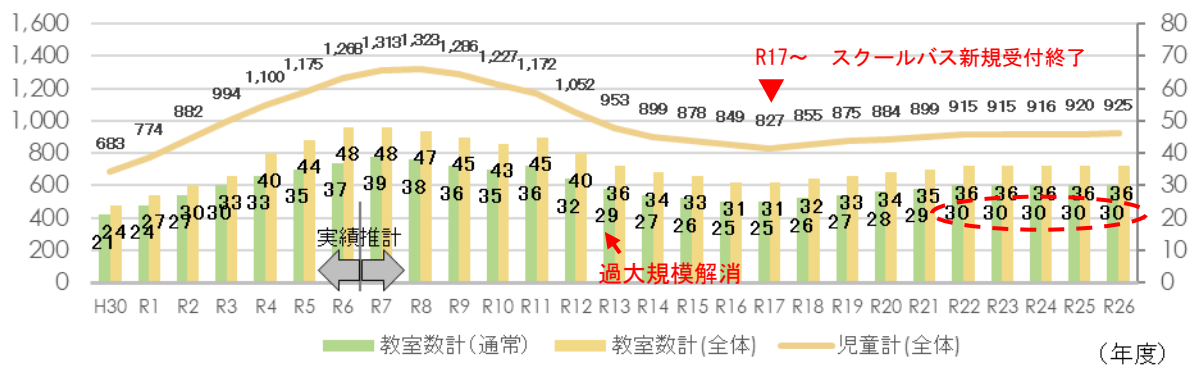
		R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24	R25	R26
特 定 地 域 選 択 制 度	1年生	37	58	55	54	32	34	26	22	21	21	20	20	20	19	19	19	19	19	19	19
	2年生	11	37	58	55	54	32	34	26	22	21	21	20	20	20	19	19	19	19	19	19
	3年生	3	11	37	58	55	54	32	34	26	22	21	21	20	20	20	19	19	19	19	19
	4年生	5	3	11	37	58	55	54	32	34	26	22	21	21	20	20	20	19	19	19	19
	5年生	3	5	3	11	37	58	55	54	32	34	26	22	21	21	20	20	20	19	19	19
	6年生	1	3	5	3	11	37	58	55	54	32	34	26	22	21	21	20	20	20	19	19
就 学 校 変 更	1年生	5	13	11	11	11	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2年生	7	5	13	11	11	11	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3年生	0	7	5	13	11	11	11	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4年生	1	0	7	5	13	11	11	11	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5年生	0	1	0	7	5	13	11	11	11	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6年生	0	0	1	0	7	5	13	11	11	11	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0



令和17年度に適正規模となる見込みですが、適正規模を維持するためには、その後も特定地域選択制度は継続する必要があるとあり、スクールバスの運行経費が継続して発生します。

(イ) 特定地域選択制度を令和22年度で終了

	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24	R25	R26
特定地域選択制度																				
1年生	37	58	55	54	32	34	26	22	21	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2年生	11	37	58	55	54	32	34	26	22	21	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3年生	3	11	37	58	55	54	32	34	26	22	21	21	0	0	0	0	0	0	0	0
4年生	5	3	11	37	58	55	54	32	34	26	22	21	21	0	0	0	0	0	0	0
5年生	3	5	3	11	37	58	55	54	32	34	26	22	21	21	0	0	0	0	0	0
6年生	1	3	5	3	11	37	58	55	54	32	34	26	22	21	21	0	0	0	0	0
就学校変更																				
1年生	5	13	11	11	11	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2年生	7	5	13	11	11	11	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3年生	0	7	5	13	11	11	11	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4年生	1	0	7	5	13	11	11	11	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5年生	0	1	0	7	5	13	11	11	11	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6年生	0	0	1	0	7	5	13	11	11	11	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0



他のシミュレーション同様に令和17年度で新規受付を終了し、令和22年度でスクールバスを終了する場合、過大規模解消後、一時的に適正規模に近づきますが、その後は児童数、学級数は再度増加に転じ、過大規模校の手前である普通学級で30学級大規模校となる見込みです。

そのため、就学校変更については、過大規模状態が解消された後も、継続して制度利用できるよう、次のように要件緩和を行うことが必要と考え、提案いたします。(他のグラフは要件緩和する前提で作成しています。)

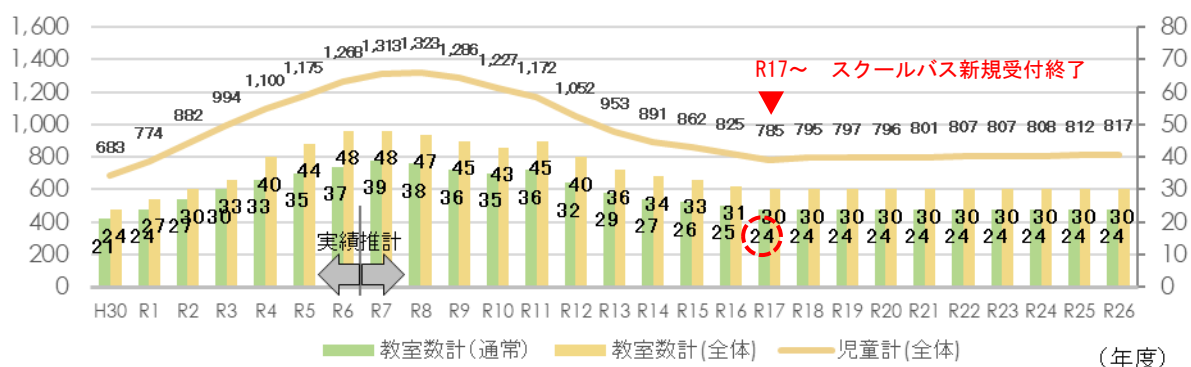
現行	改正(案)
過大規模校の通学区域に住民票がある児童が保有普通教室数に余裕がある学校への就学を希望する場合	常態的に適正規模を超えると見込まれる学校の通学区域に住民票がある児童が、保有普通教室数に余裕がある学校への就学を希望する場合

イ 就学校変更の利用促進、私立小学校の利用促進

アの要件緩和を前提として、黒内小学校から他の小学校に児童を分散させるため、就学校変更の利用促進のためのインセンティブを付与する施策（例：交通費支給等の通学支援等）を行うことも提案いたします。また、松並青葉地区周辺の私立小学校の利用促進のための施策（例：授業料補助、実費経費（給食費、学用品）の補助）を行うことも有効と考えます。

令和16年度までの特定地域選択制度での受入れに加え、特定地域選択制度による受け入れが終了する令和17年度から、+αの取組みとしてこれらの施策を実施し、就学校変更の利用率が黒内小学校の児童数の10%となり、私立小学校への就学率が3%上昇したと仮定した場合のシミュレーション結果は次のとおりとなります。

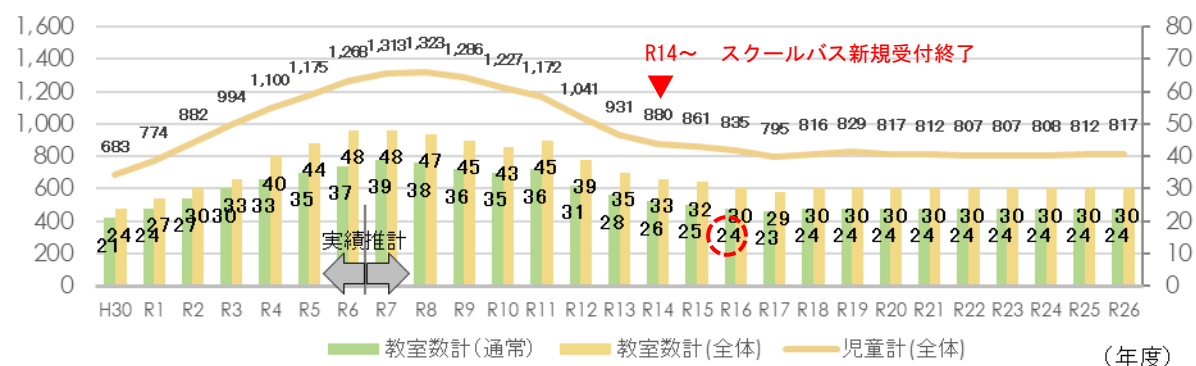
		R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24	R25	R26
特定地域選択制度	1年生	37	58	55	54	32	34	26	22	21	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2年生	11	37	58	55	54	32	34	26	22	21	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3年生	3	11	37	58	55	54	32	34	26	22	21	21	0	0	0	0	0	0	0	0
	4年生	5	3	11	37	58	55	54	32	34	26	22	21	21	0	0	0	0	0	0	0
	5年生	3	5	3	11	37	58	55	54	32	34	26	22	21	21	0	0	0	0	0	0
	6年生	1	3	5	3	11	37	58	55	54	32	34	26	22	21	21	0	0	0	0	0
就学校変更	1年生	5	13	11	11	11	8	8	8	8	8	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
	2年生	7	5	13	11	11	11	8	8	8	8	8	14	14	14	14	14	14	14	14	14
	3年生	0	7	5	13	11	11	11	8	8	8	8	14	14	14	14	14	14	14	14	14
	4年生	1	0	7	5	13	11	11	11	8	8	8	8	14	14	14	14	14	14	14	14
	5年生	0	1	0	7	5	13	11	11	11	8	8	8	8	14	14	14	14	14	14	14
	6年生	0	0	1	0	7	5	13	11	11	11	8	8	8	8	8	14	14	14	14	14
私立小学校選択	1年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	2年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	3年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	4	4	4	4	4	4
	4年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	4	4	4	4	4
	5年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	4	4	4	4
	6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	4	4	4



このシミュレーションどおりに達成できた場合、通学区域の変更を行わなくとも、令和17年度以降は、児童数は800人前後を推移し、普通学級数で24学級の適正規模校となることを見込まれます。追加的な経費が発生する事業となりますが、特定地域選択制度の縮小、廃止に伴い削減されるコストを原資として行います。

また、開始を5年前倒しし、令和12年度から、就学校変更の利用率が黒内小学校の児童数の10%となり、私立小学校への就学率が3%上昇したと仮定した場合のシミュレーション結果は次のとおりとなります。

		R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24	R25	R26
特定地域選択制度	1年生	37	58	55	54	32	34	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2年生	11	37	58	55	54	32	34	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3年生	3	11	37	58	55	54	32	34	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4年生	5	3	11	37	58	55	54	32	34	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5年生	3	5	3	11	37	58	55	54	32	34	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6年生	1	3	5	3	11	37	58	55	54	32	34	26	0	0	0	0	0	0	0	0
就学校変更	1年生	5	13	11	11	11	15	15	15	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
	2年生	7	5	13	11	11	11	15	15	15	15	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
	3年生	0	7	5	13	11	11	11	15	15	15	15	14	14	14	14	14	14	14	14	14
	4年生	1	0	7	5	13	11	11	15	15	15	15	14	14	14	14	14	14	14	14	14
	5年生	0	1	0	7	5	13	11	11	15	15	15	15	14	14	14	14	14	14	14	14
	6年生	0	0	1	0	7	5	13	11	11	15	15	15	15	14	14	14	14	14	14	14
私立学校選択	1年生	0	0	0	0	0	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	2年生	0	0	0	0	0	0	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	3年生	0	0	0	0	0	0	0	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	4年生	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	5年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4



(4) シミュレーション結果まとめ

	適正規模達成時期	スクールバス関係コスト	備考
対策なし	令和17年度	18億3,070万円	令和21年度以降大規模校となる見込み
(1) ア	令和14年度	17億2,034万円	
(1) イ	令和14年度	18億3,070万円	
(1) ウ	令和14年度	15億6,356万円	
(2)	令和12年度	9億4,260万円	
(3) ア(ア)	令和17年度	25億5,836万円	令和26年度分まで。それ以降も年間約1億円のコストが発生。
(3) イ	令和17年度	18億3,070万円	追加施策に係るコストが発生する
(3) イ´	令和16年度	15億6,356万円	追加施策に係るコストが発生する

特定地域選択制度・就学校変更の利用者数報告

1 令和8年度特定地域選択制度利用者数（9月1日（月）時点）

御所ヶ丘小学校 57名

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
松並青葉一丁目	12	7	1	0	0	0	20
松並青葉二丁目	11	6	2	1	0	1	21
松並青葉三丁目	3	3	0	0	0	1	7
松並青葉四丁目	1	5	1	1	0	1	9
国道294号以東	0	0	0	0	0	0	0
合計	27	21	4	2	0	3	57

郷州小学校 61名

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
松並青葉一丁目	6	2	1	0	0	0	9
松並青葉二丁目	5	3	1	0	1	0	10
松並青葉三丁目	7	8	2	0	1	0	18
松並青葉四丁目	13	3	3	1	2	0	22
国道294号以東	1	0	0	0	1	0	2
合計	32	16	7	1	5	0	61

2 令和8年度就学校変更申立利用者数（9月1日（月）時点）

利用数 28名

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
大井沢小学校	1		1				2
大野小学校							
高野小学校							
守谷小学校	5		2				7
黒内小学校							
御所ヶ丘小学校							
郷州小学校					1		1
松前台小学校		1					1
松ヶ丘小学校	8	5	4				17
合計	14	6	7		1		28

令和7年度スクールバス利用保護者アンケート まとめ

1 アンケート概要

調査期間 5月30日（金）から6月22日（日）まで

調査対象者 令和7年度にスクールバスを利用している児童の保護者

回答率 56.7%（34/60）

2 アンケート結果

(1) 回答者の属性

登校時乗車バス停		松並青葉三丁目	ヨークベニマル
通学校	人数	14人	20人
御所ヶ丘小学校	18人	5人	13人
郷州小学校	16人	9人	7人

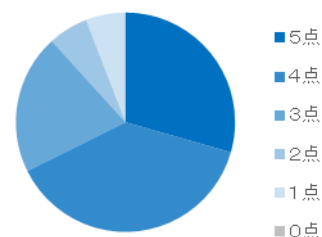
(2) 集計結果

ア スクールバスの評価

・平均点 3.79点

・内訳

点数	5点	4点	3点	2点	1点	0点
人数	10人	13人	7人	2人	2人	0人
御所	2人	8人	6人	0人	2人	0人
郷州	8人	5人	1人	2人	0人	0人

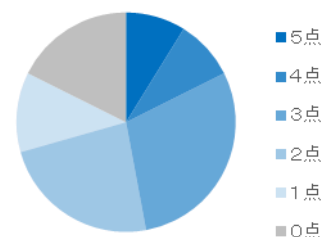


イ 乗降管理システムの評価

・平均点 2.26点

・内訳

点数	5点	4点	3点	2点	1点	0点
人数	3人	3人	10人	8人	4人	6人
御所	1人	2人	3人	3人	4人	5人
郷州	2人	1人	7人	5人	0人	1人



ウ 送迎ステーションの評価（利用者のみ回答）

・平均点 3.44点

・内訳

点数	5点	4点	3点	2点	1点	0点
人数	3人	3人	1人	0人	1人	1人
御所	0人	2人	1人	0人	1人	0人
郷州	3人	1人	0人	0人	0人	1人

